

DIRECTFORCE の情報紙

DF NOW

2012年4月発行 NO.17

詳しくはDFホームページ <http://www.directforce.org> をご覧ください



日原健氏 (美術同好会) の作品「予兆」

一般社団法人ディレクトフォース 〒100-6919 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング19F 電話03-5288-7560 発行人・真瀬 宏司 印刷・(株)ケーブプリント

第21回 ディレクトフォース 会員総会

会員活動の拡充を図り DF マネジメントの事業拡大と 適切な利益確保を目指す

第21回会員総会が3月29日に学士会館において、会員約200人出席のもと開催された。今回は、昨年12月に松村代表に代わって4代目の代表理事に就任した真瀬宏司さんが就任の挨拶に続き、昨年9月から本年2月までの23年度上期の状況ならびに今後のDF運営方針について説明。その後、理科実験グループのリーダー萩原秀留さんから南相馬市で行った理科実験の様子が報告された。また、昨年1年間に開催された12回の総会・勉強会に皆勤出席された藤田公一さんをはじめ計6名の方が紹介、表彰された。

1. 代表理事交替について

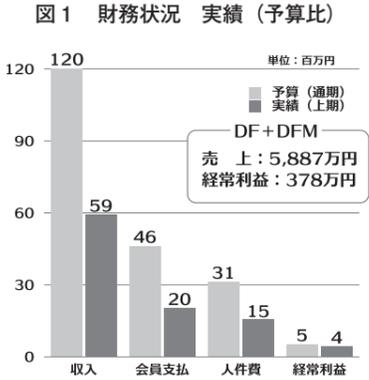
まず、前代表の松村さんが昨年8月末に任期2年を終え、交替されるのが前提であった。次に、ディレクトフォースの基金ならびにDF マネジメントの出資者であるパソナは、連結28社のグループ企業で売上1800億円、1部上場企業ではあるが株式の大半を創業者である南部靖之氏が保有しているオーナー企業である。当然のことながら松村前代表時代には4半期ごとの収支についてパソナに説明されていたが、DFの活動状況やボランティア活動の動向などが詳細には報告されずコミュニケーションギャップが生じていた。

私自身は日本アイ・ビー・エムのとパソナテクノの会長、パソナグループのCIOを2年務め、昨年までパソナの取締役会長だったため、南部さんを含めパソナとの付き合いが長いということでも代表理事に選任されることになったと考えている。

2. 財務状況

① 売上実績

DFとDFM合計の今期売上予算は120百万円、これに対する実績は59百万円で49%の進捗でありほぼ予



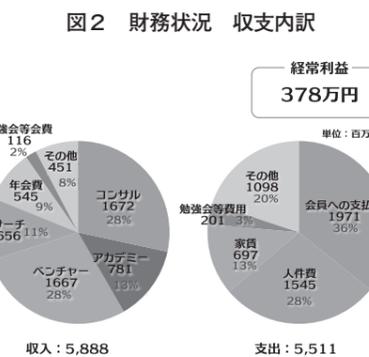
DFの方針説明をする 真瀬新代表

算どおりである。経常利益の通期予算5百万円に対して上期実績は約4百万円である。

② 収支の内訳

コンサルの収入が全体の収入の28%、アカデミー13%、ベンチャー28%、サーチ11%となっている。アカデミーとベンチャーは増収だが、コンサルの収入減が大きく、昨年の44%の構成比を28%にまで落としている。大きな理由としては、前上期にパソナキャリアの実績が17百万円あったのに対して今期の上期はゼロであること。これに伴い、会員への支払いが前年は通期で44%あったのが上期36%に落ちている。

支出のうち人件費の占める割合28%は昨年と同じ。家賃の13%は昨年より2ポイント上がっているが、賃料の値上げにより毎月20万円増加したことによる。パソナグループ企業に一部転貸したこと、若干狭くなるがスペースの一部を返上することで今後毎月の家



賃を20万円圧縮することにした。勉強会は昨年9月の総会の会費を本来5千円のところを3千円にしたことが減収原因となっている。

③ DF M 上期実績

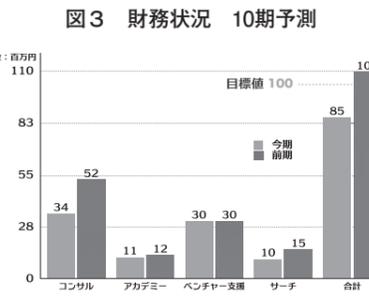
昨年1年間の実績に対して今期上期の実績がどれくらい進捗しているかを調べる。コンサルの上期実績は32%、アカデミー63%、ベンチャー55%、サーチ43%となっている。50%に達していることが望ましいが、コンサルが厳しい。

④ DF 上期実績

07年からの5年間で、パソナキャリアに82社紹介し17社が成約。12社が未成約で残っている。このうちの2社が近日中に決まる予定であり、決まれば11~15百万円の収入になる。期がずれるがコンサルも昨年に近い線に届く。アカデミー、サーチは大幅に増加している。全体の合計では昨年通期105.5百万円に対して43%に相当する47.8百万円である。

⑤ 今後の活動方針

DFについては、部会主体のボランティア活動拡大と同好会の一層の活性化である。DFMはこの活動を支援するためのお金を稼ぐことにある。DFMは事業拡大と適切な利益確保を図り、事業部の効率化を進め、パソナグループの活用を拡大していく。



活動	参加者数	割合 (%)
勉強会出席	393	65%
講師担当	114	19%
監査役部会	172	29%
環境部会	40	7%
技術部会	72	12%
理科実験	31	5%
ベンチャー	166	28%
食と農業小研究	17	3%
授業支援の会	12	2%
同好会	291	49%

1百万円。経常利益は昨年の56%に相当する166百万円。

勉強会の減収は本年1、2月開催しなかったことと昨年9月の総会会費を3千円にした関係による。業務委託の大幅な伸びはDFMのDFへの業務委託料を昨年9月から月40万円を60万円に増額したことによるもの。

⑤ 今期 (第10期) 予測

DFとDFMのトータルの今期見通しは、前期の109百万円に対して85百万円。100百万円を努力目標にして各事業部長に売上の積み上げをお願いしている。

3. 運営の仕組み

一般社団法人ディレクトフォースと株式会社DF マネジメントの運営をどのように行っていくかについては今後検討すべき課題と認識している。

DFの会員活動を積極的に支援するのには会費だけでは十分ではないので、会費以外の収入を得る必要がある。そのため組織が株式会社DFMであり、4つの事業部があるレベルの利益を上げ、DFの会員活動を支援するという基本的な考えは変わらない。すなわちDFの設立理念である、シニアエグゼクティブが現役時代の経験を生かしてよりアクティブな活動を行えるようにすることを考えるつもりはない。

シニアOB、社会貢献、ボランティアに関する組織にどのようなものがあるか調べた結果、明治以降で唯一福沢諭吉が作った交詢社が出てきた。これ以外には存在しないのでDFは日本唯一無二の会社組織、グループといえる。本日の勉強会で、北城さんがベンチャー企業への支援、社外監査役の必要性に触れておられたが、DFはまさにこうしたニーズに応えられる組織であるといえる。

4. 活動状況

① 実働会員数の推移

昨年8月末に579人であった実働会員が、本年2月末までに71人が退会し、新規に28人が入会して2月末現在実働会員数は536人になっている。



約200人の会員で満席の総会

② 活動参加者数

昨年12月末における会員595人について1年間の活動参加状況を調べたところ、勉強会、大学などの講師、監査役部会登録など各種会員活動になんらかの形で参加された方はネット上で507人、全然活動に参加されなかった方は88人であった。この半年で71人の方が退会・休会されているが、活動不参加の数にはほぼ相当する。

今後のポイントは、いずれの活動にも参加されていない会員をいかにゼロに近づけるかである。会員であればなんらかの活動にアクティブに参加していただきたいというのが一つの考え方である。

3月28日現在の会費入金済みは473人、新規入会者が30人で合わせて508人となっており、未納者37人、休会・退会者が72人である。未納者が入金していただければ会員数は現状復帰することになる。

勉強会のネットの参加者数は389人であるが、12月までは延べ1513人の参加である。同好会についてもネット291人の参加で、会員全体の49%がなんらかの同好会に所属されている。

③ 技術部会「理科実験グループ」活動 09年8月に発足。10年にグループを結成、10年は6回の活動実績であった。

が、昨年は53回、今年の見込みは60回(100回)である。今年トピックスとして昨年大震災の被害を受けた南相馬市にボランティア活動として2度出かけていることである。

④ 同好会活動状況

21の同好会がそれぞれ活発な活動を行っている。会員の49%の方291人が参加している。世話役の方の熱意とエネルギーはたいしたものであり感謝申し上げたい。

5. 今後の活動方針

DFについては、部会主体のボランティア活動拡大と同好会の一層の活性化である。DFMはこの活動を支援するためのお金を稼ぐことにある。DFMは事業拡大と適切な利益確保を図り、事業部の効率化を進め、パソナグループの活用を拡大していく。

事業効率化のために今年4月からベンチャー事業部とコンサル事業部を統合して企業支援事業部を定立させる。パソナグループについては活用されるのではなく、活用することを考える。現にDFMの過去の売上の35%から40%はパソナキャリア、ベネフィットワンによるもの。パソナはグローバル事業部を持ち、中国、インド、ベトナムにも積極的に事業を展開している。また関東の大学だけでも330校にアクセスできるので、パソナの営業をDFアカデミーの事業拡大に活用できる。

6. 勉強会・総会

12月までの総会・勉強会の予定が既に決まっている。特に10月10日には10周年を兼ねて総会・勉強会を開催する予定。また、監査役研修講座、監査役小研究グループの発表会、環境部会のセミナー、ボランティア活動など詳しくはホームページのカレンダーをご参照いただきたい。

7. お願い

これまでもご尽力いただいているが、DFMの新規顧客や案件の紹介と併せて新規会員のご紹介をお願いしたい。100人増やせば実働会員数が500人から600人になり、登録会員番号が1000番に届くことになるので10周年の日までに実現するようご協力いただきたい。

部会・研究会の活動

技術部会・理科実験グループ

延べ参加児童数が3500名を超える

学生の理工離れを防ぐには、子供時代から科学に興味と親しみを持ってもらう環境づくりが必要との考えから、技術部会に理科実験グループが発足したのは2009年。09年8月、横浜開港150周年記念事業サイエンス広場で実施したのがきっかけ。

特に、11年は東日本大震災の被災地である、南三陸町、福島県南相馬市の小学校で開催。435名の児童が参加し、理科実験に目を輝かせていました。子供たちに災害に立ち向かう元気を与えることができたのではないかと思います。

DF授業支援の会が発足

日本の将来を担う児童・生徒たちを育てる

「グローバル化時代」「知の大競争時代」といわれる現代において、将来を担う児童・生徒が自信と誇りを持って生きていくためには、学校の授業に加えて、実業界での経験者の体験を伝えることが有効との考えから、会員が学校に出前して授業をする会が発足しました。

教える内容は、次のようなものを想定しています。

- ① 働くことの重要性、社会に貢献する喜び、実務体験と仕事を通じて磨かれる能力と人間の成長、自分の適性と長所を生かせる仕事があること。
② 外国、日本の歴史や文化の理解を深め敬意を払う必要性、実体験の紹介を通して国際社会で働く楽しさ、必要性を知ってもらう。



理科実験グループの面々

勉強会レポート

10月勉強会

「レアメタルが解ると世界が見えてくる」



中村繁夫氏 アドバンスト・マテリアル・ジャパン (AMJ) 社長

11月勉強会

「世界遺産への招待」



須磨 章氏 NHK エンタープライズ・シニアエグゼクティブプロデューサー 世界遺産事務局長

12月勉強会

「アラブの春 あるテロリストと独裁者の死」



高橋和夫氏 国際政治学者、放送大学教授

3月勉強会

「イノベーションを担う人材の育成」



北城格太郎氏 元日本アイ・ピー・エム株式会社社長 社団法人経済同友会元代表幹事

まっとう、12年には開催回数を60回から100回までにする事業計画を立てています。

今行われている実験テーマは「冷却パックを作ろう」(吸熱反応)、「墨流しを創ろう」(界面活性作用) など9テーマ。

今は、成長に対応するスタッフの強化が必要です。子供好きの会員の方の参加を期待しています。

DF授業支援の会が紹介

「未来を築く君たちへ」 - DF授業支援の会ご紹介 -



活動の進め方は、基本的には「理科実験グループ」と同様に各地域の学校に...

4月以降の勉強会開催予定

4月23日

「TPP問題」(仮題) 中野 剛志氏 (京都大学大学院准教授)

5月17日

「インターネットの猛威で変貌するメディア環境」 猪熊 建夫氏 (DF会員、元毎日新聞社船井総研取締役)

6月18日

「原発問題」(仮題) 西村 明氏 (東京工業大学特命教授)

7月26日

「アンチエイジング」(仮題) 岩本 俊彦氏 (東京医科大学教授)

8月20日

「女性皇族問題」(仮題) 竹田 恒泰氏 (慶應義塾大学講師)

教育コーディネーターと連携して学校側と出前授業の内容の摺合わせを実施後、授業を行います。

また出前授業に関心のある学校や教育関係機関とコネのある方のご支援を切望します。

DF観光立国研究会企画 十日町、津南町で芸術に親しむツアー

十日町との交流がきっかけでDFに「観光立国研究会」が発足しました。

その会で、新潟県の十日町と津南町で3年に一度開かれる大地の芸術祭に参加するツアーを企画しました。

今回のツアーは、これらの創作作品に触れると同時に、日本の豊かな里山の夏を楽しむもので、DF会員限定の観光コースを用意しています。

現在のところ「ご夫妻で里山をゆっくり楽しむコース」(7月30日〜31日)、「里山と現代アートを楽しむコース」(8月28日〜29日)、「家族で里山の自然を楽しむコース」(8月1日〜2日)の三つのコースを予定しています。

詳しくは、皆様にお送りしたメールかDFのホームページをご覧ください。参加を期待し、お待ちしております。

9月12日

「社会保障と日本経済の行方ー人口減少と日本経済の見通し」 西村 周三氏 (元京都大学副学長・経済学部長、現社会保障人口問題研究所所長)

10月10日(総会)

「はやぶさ開発秘話」(仮題) 安部 隆士氏 (宇宙航空研究開発機構大等連携推進室長・教授)

11月16日

「旗にまつわるトリビア」(仮題) 越川 頼知氏 (DF会員・日本旗章学協会事務局長)

12月18日

「長寿社会に生きる」(仮題) 秋山 弘子氏 (東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)

同好会ニュース

ダイビング同好会

ボラボラ島ツアー(11・28〜12・5) 第8回のツアーはダイビングのメッカ、タヒチ島のボラボラ島。参加者はメインメンバー全員(遠藤、横井、佐藤、杉山、三木)。今回は奥様方(遠藤、杉山、三木)も初参加。総勢8名のツアー団。

ボラボラ島は雨期に差し掛かっていたが到着した日は快晴。コバルトブルーのラグーンが眼前に広がり、これぞ南の島という眺め。ホテルは「ル・マイタイ・ポリネシア・ボラボラ」。中級の落ち着いたホテル。翌日からさっそくダイビング開始。インストラクターは日本人女性の中村さん。午前中2タイプ。



ホテル「ル・マイタイ」の前で

午後からは、三木が奥様方のツアーコンダクターに従事、残りの4名でダイビングへ。滞在中、8タイプを楽しむ。ダイビング中は、マンタ、シャークなどの大型の魚を始め、南の魚たちを満喫しました。

観光でも、タヒチアンダンスのデイナーショー、サファリツアー、自然のナイスジョー、サファリツアー、自然の...

美術同好会

第4回彩遊会展(11・11〜12・8) 彩遊会会員にとって1年間の創作活動の締めくくりとなる第4回彩遊会作品展。今回はこれまで最高の21会員の作品48点が展示され、1週間の来場者数も650名に上った。



展示会場で全員そろって

来場者が多かったのは、各メンバーの個人的人脈が幅広いことを物語るものであり、友人同士絵を通じて話が弾み、そのまま懇親会に流れるといった良きコミュニケーションの場となっていた。また会期中には奥さまやご家族の来場も多く歓談を楽しむ光景が多々見られた。

来場者の声もさまざまであったが総じて好評、水彩、版画、水墨画、油彩、日本画と作品が多彩なうえモチーフも多様で、見ていて楽しいとの評もあり、当会の持ち味が十分発揮され大いに盛り上がった1週間であった。

- 西川 政廣 (日本アイ・ピー・エム)
森川 紀一 (日本アイ・ピー・エム)
立石 裕夫 (日本アイ・ピー・エム)
五味 幹常 (日本アイ・ピー・エム)
水野 勝 (丸紅)
越川 頼知 (三井物産)
菅野 繁 (東京電力)
古屋 昭彦 (外務省)
木口 利男 (みずほ銀行)
吉田 延白 (富士銀行)
和田 文雄 (住友商事)

俳句同好会

泥風吟行撰集 この2年ほどの吟行で詠まれた名句を掲げました。

- 湯島吟行 梅が香や人盛りなる男坂 河島 彦明
明神の春風切るか通宝銭 菊竹 誠二
井の頭吟行 緑陰やアートマートに人寄って 眞弓 博司
紫根草や染屋奉じし弁財天 富山 正一

- 千代田花見吟行 花冷えの将門塚やヒルの蔭 築地 美憲
春愁や高石垣の天守跡 三井 利忠
小石川吟行 (ニュートンの林檎) 夢生んで遠き国より青りんご 長谷川 博光
夏の夕種荷の闇の底へ行く木代 俊彦

- 三浦 利彦 (パイオニア)
中澤 武士 (住友海上)
栗津 博 (日本アイ・ピー・エム)
中澤 進 (日本アイ・ピー・エム)
野村 貞行 (日本アイ・ピー・エム)
山田 芳春 (日立プラント建設)
月見 三敏 (日立プラント建設)
幸脇 一英 (講談社)
後藤 良男 (日本電信電話公社)

新入会員紹介

入会者についての詳細はホームページを参照してください。

- 真瀬 宏司 (日本アイ・ピー・エム)
田邊 弘幸 (日商岩井(双日))
大石 次郎 (日産自動車)
岩井 篤 (通産省)
青木 麗 (アリアリア航空、日本アイ・ピー・エム)
千原 長美 (丸紅)
池田 良章 (住友商事)
能條 輝夫 (トヨーカネット)
大屋 哲 (麒麟麦酒)
中野 貞夫 (丸紅)